



会員数 20人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 213

令和6年3月号

2024. 3. 19

2月卓話

活かされて生きる

「京セラ創業者稲盛和夫氏に学ぶ利他の心」

～My history と併せて～

山下静江 会員

仕事を中心とした May history と、仕事に当たり“稲盛和夫氏の言葉”から感じたことを話されました。

どの私学にも学是(建学の精神)がありますが、特に自分の置かれた立場と仕事に使命感を持つ新任者にとって、現場環境は耐え難いものであったでしょう。そんななか、折に触れて“稲盛哲学”が深くしみ込んだという。

まず、学長の学生向けの言葉にあった「利他の心」の“利他”とは、自分のためを後回しにして、まず他人の幸福や利益を願うこと。なかなかできることではない。「学校は学生のためにある」「利他を学生におく」は学校の理想であるが、そうはいかない。しかし、この「利他の心」を学生にシフト変更し、モットーとしたそうです。

次に稲盛氏の言葉の「動機善なる也 私心なかりしか」との出会い。稲盛氏の著書『生き方』によれば「世のため人のために尽くすことで、自分の運命をかえることができます。自分だけ良ければいい、という利己の心を離れて、他人の幸せを願う利他の心になる。そうすれば自分の人生が豊かになり、幸運に恵まれる」「仕事をとことん好きになることが…人生を豊かなものにする唯一の方法と言えるのです」と。これをベースに教育をしたそうです。

教育・研究だけにとどまらず、[作陽ヘルスケアレストラン][幼稚園給食の立ち上げ][お弁当開発]と活躍した根底には、稲盛哲学が流れています。まだまだ山下静江さんはこの信念をもって歩み続ける…きっと教育者が天職ですって感じました。(植田)



2月例会報告

誕生会は山下博会員が対象だったが、急遽病院に行かれたとかで欠席、ストレッチ体操の後、いきなり食事会になった。食事が終りかけたころ、会場奥で「能登半島地震救援チャリティーバザー」が開かれ、テーブルの上に持ち寄ったお酒、絵画、刺繍、手作りバッグなどが並べられ、希望者が争うように購入、完売とはいかなかったが、結構な品数がさばけた。

卓話は「活かされて生きる」との題目で山下静江会員が講演、自身の経歴を紹介しながら、できたばかりの学科を任せ、苦労した経験、それを乗り越えたのが、京セラ創業者の稲盛和夫氏との出会いで、稲盛氏自身が体験した創業の苦労を、自分の教訓として活かしたことなどをパワーポイントを使って紹介した。

この後、チャリティーバザーの結果発表で、募金運動と合わせ56,610円が集まり、端数の610円はありがとう BOX に入れ、56,000円を「石川県令和6年能登地震災害義援金」へ送金することを植田会長が報告した。(安高)

例会委員会

3月5日 6名出席

3月例会卓話は、講師候補2名と日程が合わず、安河内さん提案のオンライン講演も、先方講師の了解が取れず暗礁に乗り上げた。ところが、大道芸の阿波八郎氏に昔懐かしい(?)数々の大道芸の実演を快く引き受けて頂いたので、盛り上がりを期待したい。4月の卓話は、世界を舞台に活躍するJAIC(ジャイカ)の地域連携アドバイザー小林秀弥氏に決定。5月はコミュニケーション関係、6月はコンサート関係に内定した。

また、オンライン講演の試みは今後とも続けるほか、例会での委員会、同好会報告簡素化で浮いた時間をどう活用するか等について自由討議した。(松本)

交流委員会

3月12日 7名出席

湖月堂で17時30分から開催。春の戸畑菖蒲観賞会について話し合いました。日時は5月30日、戸畑区夜宮公園に10時30分集合して見学、昼食は「レストランピアット」と決定。会費は2500円で5月の例会時が締め切りです。今年度最後の交流委員会行事となります、皆さんの参加をお願いします。

委員会は美味しい食事をしながら楽しい話をして散会しました。(吉田秀子)

広報委員会

3月1日 5名出席

12時30分～ホテルテトラ北九州で開催です。昼食の雛祭りご膳も出席者が少なくて淋しそう!でも、いつもの少数精鋭主義で4月号の編集会議に入ります。3月から4月初めのトピックス記事がなく、紙面づくりは苦しくなりそうです。続く3月号の校正は空白部分はあるものの活発な意見の応酬があり、我が委員会らしくなりました。会則等の見直し資料の配布や回収を済ませると時間オーバーで、散会となりました。

(内藤)

2月の楽しかった同好会報告

歴史文学講座

2月20日の例会終了後、ザ・ステイール・ハウスで臨時会合を開き、3月26日に開催する火野葦平文学散歩の詳細を決めました。

当日は午前11時、火野葦平資料館のある若松市民会館に集合、同資料館を見学後昼食。その後葦平が住んでいた「河伯洞」を見学し、葦平原作の映画、清川虹子主演の「女侠一代」を鑑賞します。

参加費は入館、映画鑑賞代等を含め一切無料です。会員の皆さんや友人・知人の参加大歓迎で、申し込みは3月19日までに安河内さんか松本までお知らせください。

なお、4月から5回シリーズで史学博士廣崎篤夫先生による「戦国争乱の北九州」が始まります。講座への参加も大歓迎です。(松本)

ワインを楽しむ会

寒さの残る2月25日18時から「リップ」で140回目を開催した。参加者8人。当会の開催は種々の事情から昨年8月以来、半年ぶりのことであったが、開催連絡と同時に皆様からの歓びの声を頂いていた。講師の山下博会員とはネットでの交流でしたが、いつになく個人的な会話のやり取りも多く、講師から終了後に感謝の言葉を頂戴した。

ワインはカルフォルニア、ソノマ地域の生き生きした白ワイン、次いでボルドーワイン2種(2016年、2019年もの)。料理は①お肉のパテとレバーペースト②エビと貝柱のオムレツ③ポーク肩ロースの軽い煮込み④イチゴトップのシュークリームでした。(古賀)



キョウヨウ、キョウイクで日々豊か

No.76 橋本峰子

以前、たまたま見ていたTV「徹子の部屋」で印象に残ったことを思い出してお話したいと切り出されました。

その日のゲストは坂東真理子さん(昭和女子大理事長)。対談の中で”100歳まで楽しく生きる”合言葉があり、それは「高齢になっても教養と教育が大事」とのこと。その意味は「今日用がある。今日行く所がある」。積極的に出かけることは人生を豊かにします。

元気であればこそ出来ること!少々衰え気味の80歳代の私にも用があり、行くところがあります。日常を考えてみますと、先ず

- ① 買い物＝元気の源は食事、食料品や日用品、
ウォーキングを兼ねて時々遠くのスーパーへも出かけます!
- ② 病院へ＝薬をもらい、適切な診断を受けて体調管理を
- ③ 趣味の稽古＝退職後から始めて20年ほどに(謡曲・茶道)
- ④ お隣さん＝一人住まいになった義姉へ料理のお裾分けとおしゃべりタイム
- ⑤ プロバスクラブです＝卓話等楽しみがいっぱい



このように出かける日常も元気があればこそです。健康の三本柱の栄養、運動、休養、それに社会とのつながりを大切にしながら、これからも積極的に出かけようと思うと、高らかに宣言されました。同感です、いつまでも健やかな体と心を……と願っています。(内藤)

今日は楽しくておかしな同好会報告です

♪♪ 歌をうたう会

3月2日午後2時から小倉西市民センターで開催。当日は2名が欠席し、ソプラノ1名アルト2名の少し寂しい練習日となりました。先ず、姿勢を正して発声の練習。「赤い靴」「しゃぼん玉」はかなり声が出るようになりました。(メンバーが思っているだけですが) 続いてアメリカ民謡の「旅愁」と今月からの新しい課題曲「故郷を離るる歌」(ドイツ民謡)は、同じように故郷を想う歌なのですが、作詞家によって「詩」に深い違いがあることを知りました。ハーモニーは難しいのですが、詩を感じながらこれからも歌うことを楽しみたいと思っています。(橋本)

🔪🔪 カラオケの会

2月16日11時半～浅野パティオに7名が集合。各自昼食を取り、雑談に花が咲いた後カラオケルームに入り、自慢の喉の披露です。さすが人生のベテラン揃い、年季が入っています。スナックで歌った歌、カラオケボックスで鍛えた喉など、さすが我がクラブ会員です。次回も皆さんの参加をお待ちしています。

(安河内)

🍷. 日本酒の会 柳川バスツアー参加 🍷.

日本酒の会のメンバーとその家族計9人が、2月24日出発の「谷川梅林と竹あかり幻想の世界」バスツアーに参加、柳川まで行きました。それは寒い朝でした。最初に蔵元訪問と試飲、「早く、試飲で体を温めたい」と思っていたのですが、着いたのはナント味噌、醤油の蔵元。試飲は味噌汁。蔵元と聞いて酒造会社と早とちりしたのが失敗…?それでも、我が家の味噌がなくなりかけていると気を取り直し、味噌汁を4杯試飲、気に入った味噌を購入しました。

次に訪れたホテルでの食事は豪華で、ここで地酒3種の飲み比べセットをみんなで共有して軽く1杯、そのあとは柳川の町を散策したり、漬物屋や梅林に行ったり、フルーツ専門のワイナリーに行ったりで、朝8時に出発して、小倉に戻ったのは午後6時半、万歩計は1万歩を超え、丸1日楽しみました。(安高)





ローマ街道 … 紀元前 312 年に、軍用道路として生まれた。一直線、水平、寸分の隙間もなく、びっしりと敷かれた石。頑丈さ、水はけの良さ、車道、歩道の区別あり。排水溝あり。1ローママイルごとにマイル塚がある。これらの道路の全線に渡って建設されていたのが、総計ならば3000 にもなるといわれる橋である。このような高度な技術を要する道ネットワークが 2000 年前にあったことは、驚き以外の何物でもない。2000 年前のローマ街道を少しばかり手を加えたにしろ、ほぼ同じ道筋をアスファルト舗装しただけで使っているのが、イタリアの国道 (S.S.) なのである。これはローマ時代に築き上げられた街道網の賜物であったことを物語っている。道を真っ直ぐ通すには山をも崩す。道路や水道の整備は「諸刃の剣」でもあった。ローマ人の「ポジティブさ」がローマの発展を促したのだろう。ローマ街道は始めから終わりまで通行料無料。通行料タダのほうが、国家には安くついた。

スペイン広場近くにあるヴィルゴ水道 … 螺旋階段を下り、ローマの地下水道へ、水源は 20 km 先にある。ヴィルゴ水道は紀元前19年に造られ、ローマンコンクリートによって覆われ、唯一現在も使われている。全部で 11 の水道はどこかにつながっている。ヴィルゴ水道は 99% 地下を流れている。地上だけでなく、地下にも水道網を築いたローマ人。その全長は400kmにも及ぶと言われている。

古代ローマの工学技術 … 水路の勾配を何キロにもわたって正確に計算し、目的の町まで到達させている。しかも、そこから町中へと行き渡らせている。現在のコンクリートは、20 年経っただけで劣化することがある。ローマ人が発明したローマンコンクリートは、2000 年近くも持ちこたえたのである。

チャリティー・バザー “能登半島地震被災者に義援金を”

能登半島地震の被災者を少しでも支えようと当クラブは、北國銀行県庁支店に「石川県令和6年能登半島地震災害義援金」として5万6000円を振り込みました。

この義援金は、会員に呼び掛けて1月例会で集まった2万7110円、2月例会での2000円、それに2月例会で実施したチャリティー・バザーの売上金



2万7500円から拠出され、1000円未満の端数610円はありがとうBOXに入れました。

チャリティー・バザーは、ワイン、珈琲等の飲み物から、会員が作ったテーブルクロス、手提げバッグ、コースター、それにひな人形や額皿、グラスセット等 60 点以上が格安で販売され、ほとんどの品が瞬く間に会員の手引き取られていきました。(松本)

ありがとう BOX メッセージ 2 月分 (入会順、敬称略)

- ★感謝(遠藤) ★能登ガンバッテ!(神田) ★元気に活動(大川) ★常に公明正大であることはその人の人格に表れる(古賀) ★チャリティに参加協力できて幸いです(吉田秀子) ★(松本) ★年老いて初めてキックバックを知らされた(吉田信雄) ★(安高) ★出来ることをできる範囲でと思っています(橋本) ★楽しいひと時をありがとうございました(藤原) ★時のたつのは早い、今をしっかりと生きたい!(大石)
- ★久しぶりに講演をさせていただきありがとうございました(山下静江)

収支報告	令和6年度1月末残高	133,277 円
	令和6年2月分	7,110 円
	令和6年2月末残高	140,387 円